

武蔵野市環境啓発施設運営会議（第7回）議事要録

日 時 令和2年12月10日（木）開会 午後6時 閉会 午後8時

開催方法 Web 会議システム使用によるオンライン開催

参加者 委員9名、事務局6名

小澤委員長、鈴木副委員長、池上委員、宮坂委員、中西委員、塩澤委員、後藤委員、越智委員、荻野委員

議事等

- (1) 開館記念式典及び内覧会の実施状況について
- (2) 開館後の状況について
- (3) 第13回むさしの環境フェスタの実施状況について
- (4) 「トリセツ」について（委員提案）
- (5) 施設の評価方法について
- (6) 今後のスケジュールについて
- (7) 庁内連携推進会議の設置について
- (8) 次回の日程調整について
- (9) 運営体制について
- (10) その他

委員意見・質疑及び事務局回答

発言者	要旨
事務局	資料1から3について説明。
委員	<p>今日は「トリセツ」について提案をしたい。「エコ re ゾート」を10倍楽しく利用するためのトリセツ」は基本的に、利用者である私たち市民が、同じ利用者である市民に対し、利用方法をお薦めする取扱説明書である。コロナ禍で、連携会議で議論してきた集客を伴う事業がなかなかできない中、市民にとっては、ここを利用することしかできない状況にある。</p> <p>私も何回か利用しているが、来館者が多く、広い施設の中で限られたスタッフの数だけで運営するのは厳しく、ボランティアは必要ということが実感として分かった。しかしボランティアも現状、公に募集する準備がまだ十分できていない状況の中、私たちが事業としてやろうと構想してきたことを、市民が利用する中でもできるのではないかと考えた。これから多くの市民が利用する中で、市民一人</p>

	<p>一人が環境に対して当事者である以上、エコ re ゴートの運営にも一定の関心を持ち、能動的に運営の一部を担っていく必要がある。ここを自分だけで楽しむのではなく、みんなと分かち合いながら、よりよい運営を考えていくような状況にできないか。ボランティアを本格的に募集する以前からそういった土壌を育てていくためにも、そのことを利用者に伝えていくことができないかを考えた。</p> <p>前回、利用のルールに関する議論の中で、ルールより何かメリットを伝えるものが良いのではないかという意見があり、そこから前向きなものとして伝えることができる「トリセツ」を提案した。周辺整備協議会の頃から一緒に議論していた仲間に声をかけたところ、オープンしたらボランティアをやろうと意気込んでいたメンバーも、オープンしてみると何をやればいいのか分からないところがあり、今回の話をしたら参加してくれた。差し当たってエコ re ゴートに古着を持ち込んで、それを素材にするという作業をしながら、5人でこのトリセツを検討した。</p> <p>このトリセツを見ると、最初に「こんにちは」とあいさつを交わそうということをやっている。先ほど提案したとおり、このエコ re ゴートはみんなで分かち合って利用する所であるということをやりたい。例えば、何か内輪だけで大盛り上がりするとか、あるいは、逆に排他的な感じを受けるようなことはやめてもらい、なるべくみんなで分かち合って利用することを基本にするという考えが、最初にまとまっている。オススメの利用方法として、市民が利用するにあたり、まず「もやもや」を持ち込み、そこから例えば、ごみを素材にするような活動をやしながら、最終的にはその素材を形にして、ほかの市民に伝えるところまでこのエコ re ゴートではできるということを提案している。そしてその間に、必要な物があれば持ち寄り、利用者同士で学び合うことを目指している。</p> <p>そういう主旨で今回「トリセツ」を作ってみたので、この場で議論して、市のほうで了承が得られればリリースを考えている。</p> <p>タイトル下の「案作成：(仮称) むさしのエコ re ゴート利用者協同組合」の部分は今のところ暫定で、協同組合的な運営方法を提案している。できればこういう活動を利用しながらここを運営していくことの輪を広げていき、みんなでオススメを増やしていけたらいいと考えている。</p>
委員	<p>2回ほど、孫を連れてエコ re ゴートに行き、ダンボールおもちゃを作ってきた。スタッフが非常にこやかに歓迎してくれた。委員が</p>

	<p>作ったトリセツのように、声を掛けたり、お互いにアドバイスをしたりすることから入り込むというのは、生まれたばかりのこの施設には非常に重要なことだと思う。何かを作ったら、スタッフが写真を撮ったり、持ち帰りを勧めたりすることが施設のスタート時には大切ではないか。「挨拶をする」「声を掛ける」「隣同士で助け合う」といった内容の「トリセツ」は非常に大事だと思う。</p>
委員長	<p>「トリセツ」のオススメの利用方法2に関連して、「裂き織り」という、布を素材にして、また布を作っていくものがある。年配の方は知っていると思うので、簡単に輪に入って会話できるのではないか。</p>
事務局	<p>資料4から7について説明。</p> <p>日程調整については、3月を予定している。候補日は3月3日、4日、11日、26日、29日で、近日中に日程調整のメールを送付する。</p> <p>資料7の運営会議の議事要録案については、修正が間に合わなかったので「委員限り」という形でお配りした。発言箇所を確認した上で、修正があれば、25日（金）までに連絡をいただきたい。データ修正でも良いし、修正箇所をファクス等で送っていただいても良い。</p>
委員長	<p>本日の議事、トリセツと施策の評価方法について、他に意見はないか。</p>
副委員長	<p>提示された評価の枠組みは、かなり先の話でも良いかと思う。できたばかりの施設の評価は、まず認知度だと思う。いかに多くの市民に知ってもらえるか、それを今どのぐらいやるかということが評価につながってくると思う。枠組みを作ることに気がいっているが、ある意味、評価は後から付いてくる気がする。具体的には、どういう組織が、どのような利用ができるのかという可能性を探るようなところから始めた方が良いと思う。認知されない限りは、何も始まらないので。例えば、幼稚園・保育園、小学生、中学校、高校、大学などが、どういうふうに使えるポテンシャルがあるのかということをお互いに意見を出し合い、どんな制約があるかを探り、使える条件などを考え、お互いの事情を理解することが必要である。評価はその後できることだと思う。</p>
委員	<p>仕事で公共文化施設の評価をやっているが、最初の評価の設計は大事で、定型的なことを毎年やっていくことも非常に重要になってくる。これは文化施設だけではなく、環境系の施設でも、ほかの公共施設でも同じことが言える。もう一つは、事業に参加した人を対象とした評価はやりやすいが、利用しているだけの人に対する評価は、最初から能動的、積極的にやっていると難しい。副委員長の「いかに</p>

	<p>知ってもらおうか」が大事なのももちろんだが、何年たっても自分には関係ないという市民に対して、どうアプローチしていくかということ を常に考えることも評価のポイントではないか。</p>
委員	<p>「枠組みが大事」という委員の発言に賛成である。枠組みには、行政的な観点に加え、利用者の生の声もたくさん拾っていききたい。副委員長 の発言で触れていた、就園前の子ども、幼稚園・保育園、小学生 などが来館した時に、どのようなことができるかを考えてきたい。今、 自分の働いている保育園の子どもたちと試しで来館して、どんなこと ができるのかを、子どもたち自身で考えてもらいたい。また、実際に 遊んでみて、使ってみて、出てきた言葉を集めていくことで、長期的 な枠組みが出てくるかもしれない。ぜひ今度、子どもたちと来館した い。</p>
委員長	<p>ぜひ来館して、子ども達と楽しんでほしい。</p>
委員	<p>イベントの紹介をさせていただきたい。毎月1回、一般の地域の人 にも開かれた勉強会を行っており、12月19日（土）に吉祥寺南町コ ミセンで、環境活動家の露木志奈（つゆきしいな）さんをお呼びして 開催する。BeYond Labo（ビヨンドラボ）では、エコreゾートの環境 啓発事業費補助金を申請して、環境をテーマにした勉強会を行って いく予定である。今回は環境やSDGs、特に気候変動を扱った内容にな っているの、継続して学びの場合をつくっていききたい。当日はエコ reゾートから中継があるので、ぜひご覧いただきたい。</p>
委員長	<p>露木さんが通われたグリーンスクールを視察した。異文化を通して スルーという概念で、お互いに学び合っていこうというところだろう か。</p>
委員	<p>先日は私の学校のZoom講演会、「武蔵野の地名」について、ご紹介 いただいた。講演後も講演者の方に質問のメールが届くほどの反響だ った。皆さん、武蔵野が大好きなので、地名に興味を持っていた。武 蔵野を意識して、楽しいこと、興味のあることを一緒に行っていきた い。</p>

その他

次回日程調整について

発言者	要旨
事務局	近日中に日程調整する。